

「不屈のフィル・ブラック」

昨秋、ブラック氏の生涯にわたるダンスへの貢献を讃えるイベント「フィル・ブラック タップ・エクスペリエンス」(2004年10月9日-11日)がニューヨークで開催された。

フィル・ブラック氏はダンスに深い興味を持ち、叔父の手ほどきで社交ダンスを始める。(18歳で海軍に入軍。2年間在籍)

後にカリフォルニアの有名なアーサー・マレー・ダンススタジオで社交ダンスを教えていたが、彼のダンスへの熱い情熱はニューヨークへと向寄せた。そこでアーネスト・キャロズに師事することとなる。

彼は、仲間であるブロードウェイのダンサー達について行くのにかなりの努力が必要であることをすぐに悟り、夜は港で働き授業料を稼ぎながら、できるだけ多くのレッスンを受け努力を続けた。そして、彼はまもなく才能を開花させ、パフォーマー(歌とダンス)、振り付け師として活躍し、ジュディ・ガーランド、ハリー・ベラホフォンテ、ジェリー・ルイス、ミッキー・ルーニー、トニー・ベネットらと共に共演した。

その後、ジャズ・ダンスを教え始めるようになる。キャロル氏が現役を退いてからは、スタジオを受け継ぎ「フィル・ブラック・スタジオ」を設立する。

彼は、ブロードウェイ・ミュージカル「アニー」に出演する多くの子供たちや全国から彼を探し求めて集まって来たダンサーたちをプロとして通用させるために厳しく指導した。その厳しさは「フィル・ブラックのレッスンをこなせばどんなオーディションでも通用する」と言われるほどだった。その証拠に「42ndstreet」(オリジナル・ショー)のダンサーの内、75%が彼の生徒であった。

そして、彼の実力は、ゴールドディ・ホーン、アイリーン・キャラ、マドンナ、ライザ・ミネリ、ジョン・トラボルタなどの多くの大スターを輩出するまでになる。

教えることに専念する以前は、

ブラック氏は現在、パーキンソン病と診断され、闘病中だがその進行度は一般の患者よりも遅い。彼の仕事への情熱と硬い意志が進行を遅らせているとも言われている。